



# 北海道静内農業高等学校

日本の酪農の担い手として将来が期待される高校生たち。今回は、南に太平洋、北に日高山脈を望む、自然豊かな北海道・新ひだか町で、乳牛の飼養管理に励む生徒たちを訪ねました。

## 生産・加工・流通・消費まで、フードシステム全体を学ぶ

かつて、宮内庁の御料牧場（馬）への行幸道路として、1916（大正5）年から造成された7kmに及ぶ直線道路は、いまも両側に約3,000本の桜が咲き誇る「二十間道路桜並木」として全国に名をはせています。この道に隣接する約50haの平地に、北海道静内農業高等学校の校舎や実習施設、牧草地が広がっています。創立1978（昭和53）年の同校は、日高地方唯一の農業高校です。

学科編成は、地域の農畜産業の特性を考慮し、2004（平成16）年から食品科学科と生産科学科の2学科制となりました。食品科学科には、畜産食品コースと農産食品コースがあり、どちらも農畜産物の生産・経営から加工、流通消費まで一連の流れ「フードシステム」を重視して学んでいきます。一方、生産科学科には、日本唯一の競走馬を育成する馬コースと園芸コースがあります。

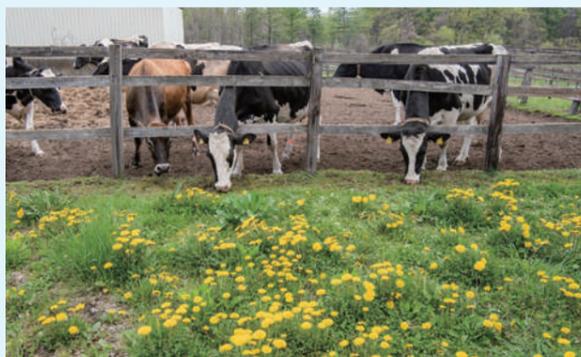
酪農や6次産業化などについて学べるのは、食品科学科の畜産学が勉強会を開き、酪農の経営を〇Xのクイズ形式などで教えるそうです。昼食は、牛乳を使った料理を、みんなで味わい楽しみます。午後は、ふれあい体験として、乳搾りや子牛との散歩などを実施しています。

この活動に賛同し協力しているのが、新ひだか町教育委員会です。地域の基幹産業である酪農の発展を期して、同校と連携。同教育委員会が、地域の小学校6校に募集チラシを配布、参加児童約20人をまとめ、開催当日、同校までの送迎を担当するなど協力しています。

この酪農科学研究班の一人、宮崎佳純さんは非農家出身。学校見学で生命にかかわる農業へあこがれを抱き入学。次第に牛に惹かれ、同班に所属しています。子どもたちと一緒に、学び遊ぶのが大好きになり世界が広がった

学ぶ勉強会を開き、酪農の経営を〇Xのクイズ形式などで教えるそうです。昼食は、牛乳を使った料理を、みんなで味わい楽しみます。午後は、ふれあい体験として、乳搾りや子牛との散歩などを実施しています。

食品コース。生徒は乳牛の飼育、飼養管理などの生産、牛乳を加工してアイスクリーム、ヨーグルト、チーズなどの乳製品製造、校内・校外含めた販売実習を通して、1次産業の面白さを学びます。また、同コースでは地元で飼育されている豚肉を使ってベーコンやウィンナーソーセージ等の製造・加工・販売実習も行います。同校はまた、地域の産業振興とともに環境保全の問題にも目を向け、校内には「資源循環バイオ実習室」を設置。環境に考慮して牛たちの尿を微生物で発酵分解して液肥を作り、過剰な施肥にならないように飼料畑に戻すなど、学びの幅を広げています。



牛舎に隣接したパドックで、くつろぐ牛たち。搾乳牛21頭（ホルスタイン種18頭、ジャージー種3頭）ほか、子牛3頭。

わが校の校訓「自尊独立」のもと、生徒たちには、生命に向き合う学習を通して、自ら考え、正しく判断できる力を養い、人間としてたくましく生きる力を身につけてほしいと思います。また、生徒会や農業クラブ活動、部活動、ボランティア活動などを通して、地域と積極的にかかわることにより、生徒一人ひとりが社会性やコミュニケーション能力を豊かに育み、地域に信頼され、必要とされるよう、人材育成に努めていきます。

## 地域に根差し必要とされる学校として人材育成を目指す



北海道静内農業高等学校 志賀 聡 校長



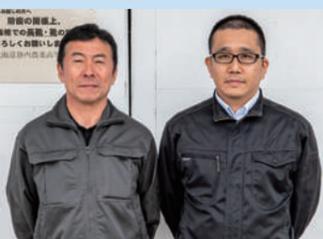
約50haの敷地の一面に建つ本校舎。この後方に「二十間道路桜並木」が延びている。



桜並木を挟んで、約20haの牧草地が広がっている。

## 立場を変えてみる。その体験実習に、新たな発見がある

『COW育 School』は、とても良い学びの場だと、我々教員教員は考えています。生徒が率先して自分たちで考え、汗をかきながら行動するとは正直、考えていませんでした。生徒自身が先生になって、地域の小学生に教えることがこの学校の意義なので、生徒は必死です。自分たちが学習したことを、小学生に合わせた内容に変更し、それを伝え教える。食品科学科、特に酪農の学習が深化するとともに、コミュニケーション能力など人間性が磨かれる良い環境だと、我々は温かく見守っています。



食品科学科（畜産担当）の多加谷実教諭（右）と、仲澤旭指導実習助手。



牛舎の前にそろった、食品科学科・畜産食品コースの3年生12人と、かわいい子牛たち。



給餌の準備をする芦沢さん。畜産加工研究班でチーズやヨーグルト作りも研究中。



酪農科学研究班に所属している清水さんは料理好き。来年は調理専門学校へ進む予定。



牛舎で寝わらをふんわりまとめている宮崎さん。『COW育 School』が大好きです。

## 学校と町の教育委員会が連携して『COW育 School』を毎年開催

農業を学ぶ全国の高校生で組織される「日本学校農業クラブ」は、技術競技会や意見「プロジエクト発表会などで、毎年、全国大会を開催しています。同校の食品科学科にも、畜産加工研究班、農産加工研究班、プラントサイエンス研究班などのほか、同学科の6人が所属する「酪農科学研究班」があり、それぞれ課題研究活動に自主的に取り組んでいます。

酪農科学研究班では、地域の小学生を対象に、酪農について学び体験できる「わんぱくチャレンジスクール ふるさと空 静内農業高校『COW育 School』」を毎年9月に同校内で開催しています。

当日の午前中は、酪農を楽しく



①



②



④

①昨年開催の『COW育 School』。地域の小学生たちが酪農を知る絶好の機会。②生徒たちが作った乳製品、アイスクリームやヨーグルトなどが定期的に販売される「あぐり工房・桜樹」。③使用済みの寝わらに尿を掛けて発酵分解を促し堆肥を作る。④牛舎の裏に建つ「資源循環バイオ実習室」内部。尿に微生物を混ぜ、5槽のタンクで発酵分解を促し、液肥を作る。